

春野菜 順調に収穫



レタスを収穫する一戸さん

適期収穫で品質維持

～春レタス収穫始まる～

尾上基幹支店管内で、春レタスの収穫が最盛期を迎えました。収穫作業は4月中旬から始まり、生産者が早朝に収穫したレタスが尾上青果センターに次々と運び込まれました。管内ではハウスを有効活用し、春の所得向上につなげるため、夏秋トマトの前作としてレタスを栽培しています。

4月23日、一戸正志さんのハウスでは、妻の俊子さんがレタスの収穫に大忙し。一戸さんは「今年は小玉傾向ではあるが、品質の良いものが多い。品質が低下してしまう前に収穫作業を終わらせたい」と話しました。

令和3年産は尾上野菜部会のレタス生産者5人が作付け。栽培面積は約15㍍、約600箱（1箱／5㍍）を県内に出荷する予定。

基準に達したものから出荷

～アスパラガス収穫最盛～

常盤基幹支店管内では、ハウス栽培のアスパラガスの収穫作業が始まりました。5月上旬からは露地栽培のアスパラガスの収穫が始まり、9月中旬まで続きます。

佐藤千加子さんのハウスでは4月26日、ハウスで栽培したアスパラガスの収穫作業を行いました。早朝と夕方に、収穫基準の長さである27㍍になったものを、地際からはさみで切り取り、翌朝に常盤青果センターへ運びます。

佐藤さんは「収穫作業は順調に進んでいる。今後も出荷基準を守り、消費者へおいしいアスパラガスを届けたい」と話しました。

27日には常盤青果センターで目揃会を開き、生産者は収穫作業の注意事項などを確認しました。同センター管内（常盤・板柳）では33人が出荷。令和3年産は約6000㍍（1㍍／4.5㍍）を主に県内へ出荷する予定。



アスパラガスを収穫する佐藤さん